

# \*\*\* 今日の健康（4月） \*\*\*

## <小児の薬物誤飲および中毒>

小児の薬物中毒事故は成人の約6倍です。年齢別にみると1～4歳に最も多く、次いで0～1歳です。好奇心が旺盛になる年齢です。小さな子供の場合、実際に飲んだかどうか、またどの位の量を飲んだのかはつきり見当がつかないことが多いので、周囲の状況から判断せざるを得ないですが、実際には飲んでみてもごく少量の場合が殆どで、中毒まで進むものは薬物誤飲の300～1000例に1例位といわれています。5歳未満の子供で最も多いのはタバコ、次いで医薬品、化粧品、殺虫剤、洗剤の順に多く、5歳以上になると頻度としてはずっと少なくなります。その内容は医薬品が多く、次いで石鹼、洗剤、体温計の水銀の順となり、またボタン電池の誤飲も多くなります。

## <医薬品や化学薬品などの誤飲の予防対策>

1. 薬剤の蓋は常にしっかり閉めておく。シロップ瓶などは安全キャップの使用が効果的です。
2. 中毒の原因となるものは全て子供の手の届かないところに保管する。
3. 食べる物と薬品や洗剤は同じところには置かない。
4. 親が子供の前で常用薬を飲むことをやめる。好奇心の旺盛な子供はすぐにまねをしたがるものです。
5. 薬品を使用する仕事を中断するときは、その薬品を子供の手の届かない場所にしまう。
6. 農薬などの化学薬品をジュースの瓶などに入れて小分けしたりしない。

## <誤飲したとき、最初にする事>

1. 前後の状況、誤飲した薬品の種類や量を知ること。
2. 水でうがいさせる、指をのどに突っ込んでかはせる、牛乳や卵白を飲ませるなど行う。
3. 主治医に連絡する。あるいは設備のある病院に直接救急搬送する。
4. 病院に行くときは、残りの薬品を容器のまま（説明書があればそれも）持参する。
5. 自宅で様子を見る場合は、1時間後、さらに3～4時間後に主治医に状態を報告するようにする。

## <5歳未満で最も多いタバコの誤飲について>

中毒 110番の資料ではタバコの相談が全体の15%を占め、その殆どが8～15ヶ月の乳児に多いです。紙巻きタバコの場合、胃からのニコチンの吸収は遅く、かつ嘔吐を伴うことが多いので、実際に中毒になることは希です。しかし、灰皿のかわりに使った缶の中のジュースや水にニコチンが溶け出したものを飲むと危険です。小児の致死量は10～20mg（タバコ1本分）です。

症状：ニコチンが吸収されると30分前後で、嘔気、嘔吐、流涎、腹痛、下痢、めまい、顔面蒼白、視・聴力障害、けいれん、興奮、錯乱、呼吸不全などの症状が現れることがあります。

処置：たべた量がわずかな場合はそのまましばらく様子を見ましょう。少し食べていてもタバコ1本の2分の1程度の場合は、家庭で濃いお茶をぬるくして出来るだけたくさん飲ませ、のどへ指を入れて吐かせる。これを何回か繰り返す。1～2回試みて吐かない場合は、気管支へ吸い込むことがあるので無理をさせないで病院に行きましょう。

今回はタバコの誤飲に関して紹介しましたが、医薬品、化粧品、殺虫剤、洗剤、乾燥剤など、事故の発生時には直ちに主治医に連絡しましょう。また、つくば中毒110番（筑波メディカルセンター）は0990-52-9899、大阪中毒110番は0990-50-2499です。